

脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査のあり方に関する研究班 令和5年度研究報告書概要



- 研究課題「脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な課題整理を行うための研究」の令和5年度研究報告書の概要は以下の通り。

健康調査実施の前提・留意事項

- ①脳磁計及びMRIを活用して地域間（群間）比較を行う調査となること
- ②対象地域や被検者の抽出にあたっては代表性の確保と適切な分析のための調査項目の設定が必要であること
- ③統計学的な必要数の確保と検査キャパシティ等を踏まえた実現可能性を踏まえた検討が必要であること
- ④各種バイアスに配慮する必要があること
- ⑤地域の実情を踏まえた慎重な検討と丁寧な調整が必要であること
- ⑥「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を踏まえることが望ましいこと

調査項目

①問診、②脳磁計による検査、③頭部MRIによる検査、④脳神経内科専門医による神経学的診察、⑤その他、の全て又は一部を行うことを想定。

調査対象

地域間比較を行う観点から①水俣病認定患者発生地域、②その周辺地域、③有機水銀汚染とは無関係の地域を対象とすることを想定。実施にあたっては関係自治体等との丁寧な調整が必要。

検討課題

- ①脳磁計及びMRIの研究の進捗などを踏まえた調査項目、対象地域、対象者数等の更なる検討
- ②調査から除外する対象者や具体的な調査の実施方法等の検討
- ③各種バイアスをできる限り排除するための調査の実施方法の検討 など

（参考）研究班の概要

- 研究課題名：脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な課題整理を行うための研究
- 研究予定期間：3年
- 主任研究者：中村 好一（宇都宮市保健所長（自治医科大学 名誉教授））
- 研究協力者：水澤 英洋（国立精神・神経医療研究センター理事長特任補佐）
小佐見 光樹（自治医科大学助教）
高橋 邦彦（東京医科歯科大学教授）
立森 久照（慶應義塾大学特任教授）
中村 政明（国立水俣病総合研究センター臨床部長）
平井 俊範（熊本大学病院長・教授）